

日本文学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
日本文学概論	歌枕と『おくのほそ道』	2	佐倉 由泰	3	金曜3限
日本文学概論	王朝物語文学の世界	2	横溝 博	4	金曜3限
日本文学基礎講読	更級日記を読む	2	横溝 博	3	金曜2限
日本文学基礎講読	近代の短編小説を読む	2	仁平 政人	4	金曜2限
日本文学各論	『源氏物語』の成立と展開	2	横溝 博	5	月曜2限
日本文学各論	中世の京と鎌倉をめぐる 文学	2	佐倉 由泰	5	火曜2限
日本文学各論	〈亡霊〉の近現代文学	2	仁平 政人	6	月曜2限
日本文学各論	中世の京と鎌倉をめぐる 文学	2	佐倉 由泰	6	火曜2限
日本文学各論	日本における漢籍と漢文 学	2	河野 貴美子	5	集中講義
日本文学演習	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	5	月曜4限
日本文学演習	『源氏物語』の研究	2	横溝 博	5	月曜5限
日本文学演習	大正期の短編小説の研究	2	仁平 政人	5	水曜4限
日本文学演習	『平家物語』の研究	2	佐倉 由泰	5	木曜2限
日本文学演習	大正期の短編小説の研究	2	仁平 政人	6	水曜4限
日本文学演習	『平家物語』の研究	2	佐倉 由泰	6	木曜2限

科目名：日本文学概論

曜日・講時：金曜3限

semester：3 単位数：2.00 単位

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB35301, 科目ナンバリング：LHM-LIT201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：歌枕と『おくのほそ道』

2・授業の目的と概要：歌枕と『おくのほそ道』について、作品の表現を具体的に考察し、表現間の関係を明らかにするとともに、それぞれの作品、表現の文学史上の意味、文化史上の意味を捉えて行く。毎回の授業の後に、授業内容について考えたこと、関心を持ったことを書いて提出してもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

3. 学習の到達目標：(1) 日本の文学について、具体的な作品の考察を通して、その多様な表現の特質と文学史上の意義を理解する。

(2) 文学作品の読解の基礎的な方法を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は次の順に進める（同一のテーマで複数回の授業を行う場合を含む）。

- 1 はじめに—『おくのほそ道』と平安時代の和歌—
- 2 歌枕の形成
- 3 数寄ということ
- 4 白河の関をめぐる和歌、物語
- 5 安積山、黒塚をめぐる和歌、物語
- 6 信夫をめぐる和歌、物語
- 7 岩沼、名取をめぐる和歌、物語
- 8 宮城野、多賀城をめぐる和歌、物語
- 9 塩釜・松島をめぐる和歌、物語
- 10 平泉をめぐる和歌、物語
- 11 まとめ

5. 成績評価方法： 学期末に提出してもらったレポート [50%] と、小レポート [50%] をもとに評価する。

6. 教科書および参考書： 教科書は使用せず、プリントを使って、古典作品の本文を読み解き、解説する中で、授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

7. 授業時間外学習： 授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本講義（日本文学概論）は、第4semesterも連続して履修することが望ましい。

科目名：日本文学概論

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：横溝 博

コード：LB45301, **科目ナンバリング：**LHM-LIT201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：王朝物語文学の世界

2・授業の目的と概要：日本の物語文学はいつ発生し、いつ終息したのか——。本講義では『源氏物語』に代表される王朝物語文学の成立と展開の様相を、物語文学を取り巻く様々な文芸ジャンルとの相関のもとに、種々の作品テキストを取り上げつつ探っていく。王朝物語の時代は平安から室町と長きにわたるが、とりわけ王朝物語という文芸ジャンルが物語作者の存在意義とも絡んで取り沙汰されるようになる院政期から鎌倉中期を中心に、散逸した物語の資料をも重要な手がかりとしながら、物語文学というコンテンツの消長を探っていく。

3. 学習の到達目標：(1) 日本の物語文学について、作品もしくはその断片、関連資料の分析を通して、その特質と史的展開に関する理解を深める。

(2) 古典作品を読解・鑑賞するに際しての基本的な知識を習得することで、王朝物語の文化史的意義について把握できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下は本講義で扱うトピックスを列挙したものであり、実際の授業の順序もしくは進度とは異なる。

- 01 王朝物語史(現存物語、散逸物語)
- 02 前期物語(竹取物語、うつほ物語、落窪物語、住吉物語)
- 03 源氏物語(補作を含む)
- 04 後期物語(狭衣物語、夜の寝覚、浜松中納言物語)
- 05 院政期物語(海人の刈藻、とりかへばや、有明の別れ)
- 06 歴史物語(大鏡、栄花物語)
- 07 物語評論(無名草子、今鏡)
- 08 物語歌合(物語二百番歌合)
- 09 物語歌集(風葉和歌集)
- 10 中世王朝物語(鎌倉時代)
- 11 中世王朝物語(南北朝時代)
- 12 中世王朝物語(室町時代)
- 13 和歌と物語、歴史と物語、物語と絵画
- 14 物語の作者と読者(六条斎院物語歌合)
- 15 王朝物語の終焉(室町時代物語、お伽草子)

5. 成績評価方法：学期末に提出するレポート [50%] とミニッツペーパー [50%] をもって評価する。なお、ミニッツペーパーは毎時間 Classroom により提出するものである。

6. 教科書および参考書：基本的にはスライド (Classroom にアップして事前配布) を使って授業を進める。参考書は授業の中で随時紹介する。なお、一度配布した資料は繰り返し使用するので、毎時間用意すること。教場への PC の持ち込み可。樋口芳麻呂編『王朝物語秀歌撰(上) 物語二百番歌合・風葉和歌集上』(岩波文庫、1987)、同『王朝物語秀歌撰(下) 風葉和歌集下・源氏物語歌合』(岩波文庫、1989)は本講義のバイブル(但し購入を必須とするものではない)。

7. 授業時間外学習：作品を通読するのは困難としても、王朝物語史に関しては様々な学術書・研究書が存在するので、授業で紹介したものも含めて、可能な限り手に取り、概要の把握に努めること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

本講義は第3セメスターから連続して履修することが望ましい。

科目名：日本文学基礎講読

曜日・講時：金曜 2 限

semester：3 単位数：2.00 単位

担当教員：横溝 博

コード：LB35203, 科目ナンバリング：LHM-LIT212J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：『天徳内裏歌合』を読む

2・授業の目的と概要：『天徳内裏歌合』について輪読と発表を繰り返す中で、古典作品の本文の立て方や注釈の付け方、考察の方法等について、実践的に学ぶことを目的とする。また古典作品の鑑賞について学習することを目的とする。

3. 学習の到達目標：『天徳内裏歌合』を素材に、以下について学習することを到達目標とする。

- (1) 変体仮名の読解と翻刻、校訂本文の作成、注釈など、古典文学研究のための基本的な作業・所作について、実践的に学ぶ。
- (2) 和歌をはじめとする古典文学についての理解を深めるとともに、古典文学を読み進めるために必要な文献など、情報収集の手段や方法についても知識を得、その活用の仕方についても学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。授業内容の説明、各回の発表者の決定。
2. 『天徳四年内裏歌合』および歌合についての講義。変体仮名の読解練習の説明。
3. 発表と質疑応答 / 変体仮名の読解練習
4. 発表と質疑応答 / 変体仮名の読解練習
5. 発表と質疑応答 / 変体仮名の読解練習
6. 発表と質疑応答 / 変体仮名の読解練習
7. 発表と質疑応答 / 変体仮名の読解練習
8. 発表と質疑応答 / 変体仮名の読解練習
9. 発表と質疑応答 / 変体仮名の読解練習
10. 発表と質疑応答 / 変体仮名の読解練習
11. 発表と質疑応答 / 変体仮名の読解練習
12. 発表と質疑応答 / 変体仮名の読解練習
13. 発表と質疑応答 / 変体仮名の読解練習
14. 発表と質疑応答 / 変体仮名の読解練習
15. 発表と質疑応答 / 変体仮名の読解練習

5. 成績評価方法：授業時の発表および期末レポートの内容 [60%]、授業への参加の度合い(コメント・質疑応答) [40%]

6. 教科書および参考書：【教科書】：萩谷朴，谷山茂校注『歌合集(日本古典文学大系 74)』(岩波書店、1965 年)。『実用変体がな』(新典社)。

【参考書】：変体仮名の読解練習に用いる影印については Classroom にアップして配布する。その他、教場で指示する。

7. 授業時間外学習：事前に配布される発表資料に目を通し、質問事項を予め用意しておくこと。授業で扱う範囲外の部分についても、自学自習の上、作品内容の把握に努めること。また変体仮名のアプリを使う(遊ぶ)など、日常的に変体仮名の世界に触れること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

『天徳内裏歌合』は、後世、内裏歌合の模範として仰がれ続けた日本文化史上、記念すべき行事です。『小倉百人一首』にとられた有名な和歌もいくつかあり、行事記録も豊富に残っていることから、行事の内容や規模をある程度、復元することができます。本イベントの内容について学ぶとともに、「歌合」という競技の場を想像し追体験することで、和歌の鑑賞に役立てていきます。

科目名：日本文学基礎講読

曜日・講時：金曜 2 限

semester：4 単位数：2.00 単位

担当教員：仁平 政人

コード：LB45202, 科目ナンバリング：LHM-LIT212J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近代の短編小説を読む

2・授業の目的と概要：この授業では、芥川龍之介をはじめとした日本近代の作家の短編小説を対象として、多様な観点からの分析を行い、文学研究の方法を学ぶことを目的とする。

受講者は担当する作品について、調査・分析の結果をレジュメにまとめて報告を行う。報告と質疑応答を通して、作品に対する理解を深めるとともに、近代文学を研究する基本的な手続きと、分析の視点を身につけることが本講読の目的である。

3. 学習の到達目標：(1) 本文の異同の確認や文献の収集、コンテキストに関する調査など、近代文学研究の基本的な手続きを実践的に学ぶ。

(2) 近現代文学の特性について理解を深め、小説を分析する視点を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 分析のレッスン①
3. 分析のレッスン②
4. 近代文学研究の方法①
5. 近代文学研究の方法②
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

5. 成績評価方法：授業における発表とレポート（60%）、授業への積極的参加（40%）

6. 教科書および参考書：講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本文学各論

曜日・講時：月曜 2限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：横溝 博

コード：LB51201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：『源氏物語』の成立と展開

2・授業の目的と概要：『源氏物語』現五十四帖がいかにして構成されているか、成立の問題、巻序の問題をはじめ、散逸した巻巻(「桜人」「狭筵」「巢守」さらには「輝く日の宮」)についての『源氏釈』『奥入』等の記述を検証する。「輝く日の宮」の巻は存在したのか。また、定家本・河内本成立の過程と意義、別本の価値をも含めた諸本(写本群)についても考察する。『源氏物語』の初期の注釈書や梗概書、系図等にも目配りし、『山路の露』『雲隠六帖』といった補作、さらには平安~鎌倉・室町時代の物語作品における『源氏物語』受容の痕跡をも手がかりとして、平安から中世にかけて、どのような『源氏物語』テキストが流通していたのかを探る。その際、古筆切等、新発見の資料にも目配りしたい。文字テキスト以外に、院政期の『源氏物語絵巻』を、詞書とともにDVDで鑑賞する。復元プロジェクトによって、平安絵師の仕掛けた謎が現代に明らかとなるのか——。このような検証、思考を通して、広く「〈源氏物語〉とは何か」、を考えていくことを目的とする。

3. 学習の到達目標：『源氏物語』の成立と展開、流布と継承、受容および享受の問題を広く学ぶことで、(1)『源氏物語』をめぐる文化の諸現象に対する理解を深め、(2)『源氏物語』を独力で鑑賞し、(3)テキストを批判的に読み解くための基本的な知識を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。講義資料の事前配付。参考文献の紹介。
2. 『源氏物語』の諸本の異同について。「桐壺」巻を例に考える。
3. 「幻」巻の異文。ミセケチをめぐる『原中最秘抄』の諸説。
4. 「柏木」巻の表現と国宝『源氏物語絵巻』の詞書。柏木像の後代への影響。
5. 「桜人」について。『源氏釈』の逸文から復原する。
6. 「かかやく日の宮」と並びの巻について。『奥入』の記述から考える。
7. 藤原定家の『源氏物語』蒐書活動と書写活動。『奥入』と『明月記』紙背から考える。
8. 「巢守」について(1)。『源氏物語古系図』から復原する。
9. 「巢守」について(2)。「古筆断簡』『風葉和歌集』から復原する。
10. 『源氏物語』の構成について。『源氏物語』は五十四帖か。六十巻説、三十七帖説を考える。
11. 『山路の露』について。補作の試みもしくは『雲隠六帖』。
12. 『山路の露』を読む(1)。「序文」を読む。
13. 『山路の露』を読む(2)。薫と浮舟の再会場面を読む。
14. 『山路の露』を読む(3)。浮舟と手習歌。
15. 『山路の露』を読む(4)。物語としての独自性。

5. 成績評価方法：レポート(期末)の内容 [50%]、毎時間提出するミニットペーパーの内容 [50%]。

6. 教科書および参考書：【教科書】『源氏物語補作 山路の露・雲隠六帖 他二篇』(今西祐一郎編注、岩波文庫、2022年)その他はすべてプリントを用いる。テキスト(岩波文庫)は大学生協で購入のこと。毎時間用意すること。参考文献は授業内で随時紹介する。Classroomを併用する予定。

7. 授業時間外学習：復習に力を入れること。『山路の露』については、授業で読む箇所以外についても、自分で読み進め、内容把握に努めること。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

二年生でも関心のある人は単位にかかわらず受講されたい。

科目名：日本文学各論

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB52201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：中世の京と鎌倉をめぐる文学

2・授業の目的と概要：承久三年（1221年）に起こった承久の乱を記した『承久記』と、貞応二年（1223年）の京から鎌倉への旅を記した『海道記』について考察する。この二つの作品の表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、各作品の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。毎回の授業の後に、授業内容について考えたこと、関心を持ったことを書いて提出してもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

3. 学習の到達目標：（1）表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるように読解力、洞察力を身につける。

（2）文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 承久の乱と文学

第2回 『承久記』の諸本と概要

第3・4回 『承久記』慈光寺本の世界

第5・6回 『承久記』流布本・前田家本の世界

第7回 『承久記』の特質

第8回 『海道記』の概要

第9回 『海道記』の旅の記述（1）

第10回 『海道記』の旅の記述（2）

第11回 『海道記』の旅の記述（3）

第12回 『海道記』の旅の記述（4）

第13回 『海道記』の旅の記述（5）

第14回 『海道記』の旅の記述（6）

第15回 まとめ

5. 成績評価方法：学期末に提出してもらおうレポート [60%]・小レポート [40%]

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

7. 授業時間外学習：授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本講義（中世の京と鎌倉をめぐる文学）は、第6セメスターも連続して履修することが望ましい。

科目名：日本文学各論

曜日・講時：月曜 2 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：仁平 政人

コード：LB61201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：〈幽霊〉の近現代文学

2・授業の目的と概要：近代以降の日本において、幽霊は一般に前時代的な迷信として意味づけられている。だがその傍らで、近現代の文学はリアリズムを基調としながら、様々なかたちで「幽霊」的なものを表象してきた。そこには、近世以来の「怪談」や、民俗学、西洋心霊学、あるいは災害・戦争等の死者の慰霊や、リアリズムに対する批判など、多様な文脈とかがわる表現の試みを見ることができる。本講義では明治期から近年にいたる日本近現代文学の諸相について、〈幽霊〉の表象という観点を手がかりとして、多角的に分析することを目的とする。

3. 学習の到達目標：文学テキストを、社会的・文化的なコンテキストとの関わりを視野に入れて多面的に読み解く能力を養い、戦後の日本文学の特性や意義について理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 三遊亭円朝と「怪談」の近代
3. 他界の内と外—幸田露伴「対髑髏」—
4. 過去の声—小泉八雲『怪談』など—
5. 「おばけずき」作家・泉鏡花の文学 —「眉かくしの霊」を中心に—
6. 夏目漱石、〈幽霊〉と出会う
7. 心霊学の時代と文学 —宮沢賢治など—
8. モダニズムと〈幽霊〉の方法 —伊藤整など—
9. 敗戦後文学の亡霊たち①
10. 敗戦後文学の亡霊たち②
11. 川端康成における「心霊」と「亡霊」①
12. 川端康成における「心霊」と「亡霊」②
13. 「お化け」とアヴァンギャルド —安部公房の試み—
14. 村上春樹「レキシントンの幽霊」を読む
15. 東日本大震災後文学の〈幽霊〉 —石沢麻衣など—
(質問への応答、補足説明などによって、予定通りに進まないことがあります。)

5. 成績評価方法：最終レポート (50%)・授業への出席 50%。毎時間提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

6. 教科書および参考書：テキストはプリントで配布する。また、参考書等については教室で指示する。

7. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を事前に精読しておくこと。また、授業を通して関心を持った問題については幅広く参考文献を読み、考察を深めること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

なし

科目名：日本文学各論

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB62201, **科目ナンバリング：**LHM-LIT301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：中世の京と鎌倉をめぐる文学

2・授業の目的と概要：仁治三年（1242 年）の京から鎌倉への旅を記した『東関紀行』と、弘安二年（1279 年）の京から鎌倉への旅とその後の鎌倉での滞在中のことを阿仏尼が記した『十六夜日記』について考察する。この二つの作品の表現を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、各作品の特質とともに、そこに現れる世界観、人間観、社会認識のあり方を明らかにして行く。毎回の授業の後に、授業内容について考えたこと、関心を持ったことを書いて提出してもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。

3. 学習の到達目標：（1）表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。

（2）文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回 『東関紀行』の概要
- 第 2 回 『東関紀行』の旅の記述（1）
- 第 3 回 『東関紀行』の旅の記述（2）
- 第 4 回 『東関紀行』の旅の記述（3）
- 第 5 回 『東関紀行』の旅の記述（4）
- 第 6 回 『東関紀行』の旅の記述（5）
- 第 7 回 『東関紀行』の旅の記述（6）
- 第 8 回 『十六夜日記』の概要
- 第 9 回 『十六夜日記』の旅の記述（1）
- 第 10 回 『十六夜日記』の旅の記述（2）
- 第 11 回 『十六夜日記』の旅の記述（3）
- 第 12 回 『十六夜日記』の旅の記述（4）
- 第 13 回 『十六夜日記』の旅の記述（5）
- 第 14 回 『十六夜日記』の旅の記述（6）
- 第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：学期末に提出してもらおうレポート [60%]・小レポート [40%]

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。

7. 授業時間外学習：授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本講義（中世の京と鎌倉をめぐる文学）は、第 5 セメスターから連続して履修すること。

科目名：日本文学各論

曜日・講時：集中講義

semester：5 単位数：2.00 単位

担当教員：河野 貴美子

コード：LB98804, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本における漢籍と漢文学

2・授業の目的と概要：漢字漢文文化圏とのつながりから、日本文学の形成とその特徴について、通史的に概観する。授業では、大陸からもたらされた漢籍をはじめとする学術文化の状況や、日本においてそれらがいかに学ばれ摂取吸収されたのか、また、漢籍の刺激を通じて生み出された日本の言語、文学、書物のありようについて、いくつかのトピックを取り上げつつ考察していく。

3. 学習の到達目標：日本における漢籍と漢字漢文文化の受容や漢文学にかかわる基本的な事項について理解するとともに、漢籍や漢文学を研究する際に必要となる基本知識や方法を学び、身につけることを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション（本講義の目的と概要）
2. 日本に伝来した漢籍とその特徴1：写本を中心に
3. 日本に伝来した漢籍とその特徴2：版本を中心に
4. 目録学と書物の分類法1：前近代
5. 目録学と書物の分類法2：近現代
6. 上代の漢文学
7. 中古前期の漢文学
8. 中古後期の漢文学
9. 中世の漢文学
10. 近世の漢文学
11. 日本人の漢文学習1：幼学書
12. 日本人の漢文学習2：抄物
13. 空海の学問と漢文学
14. 菅原道真の学問と漢文学
15. 教場レポート

5. 成績評価方法：教場レポート 50%、授業への主体的な参加度 50%

6. 教科書および参考書：教場で適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：配付資料の事前読了を求めます。各回の予復習には 60 分程度かかると想定されます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本文学演習

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：横溝 博

コード：LB51403, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：『源氏物語』の研究

2・授業の目的と概要：『源氏物語』「玉鬘」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

3. 学習の到達目標：『源氏物語』「玉鬘」巻を精読することで、(1)物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2)諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス(発表者及びローテーション決定)
2. 講義(「玉鬘」巻までの物語の流れ、第一部の構成、物語の人物について)
3. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「玉鬘」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

5. 成績評価方法：授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容 [60%]、授業への参加(質疑応答を含む) [40%]

6. 教科書および参考書：【テキスト】岩波文庫『源氏物語 (四) 玉鬘～真木柱』(岩波書店、2018年)を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『(新装版) 常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012年)がある。その他、参考文献は随時紹介する。

7. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

- ・本演習は、5時限目も連続して履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本文学演習

曜日・講時：月曜 5 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：横溝 博

コード：LB51503, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：『源氏物語』の研究

2・授業の目的と概要：『源氏物語』「真木柱」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジюмеとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

3. 学習の到達目標：『源氏物語』「真木柱」巻を精読することで、(1)物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2)諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
2. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
3. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「真木柱」巻の輪読と考察×2
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

5. 成績評価方法：授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容 [60%]、授業への参加(質疑応答を含む) [40%]

6. 教科書および参考書：【テキスト】岩波文庫『源氏物語(四)玉鬘・真木柱』(岩波書店、2018年)を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『(新装版) 常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012年)がある。その他、参考文献は随時紹介する。

7. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

9. その他：

- ・本演習は、4校時目から続けて履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本文学演習

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：仁平 政人

コード：LB53407, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：

1. 授業題目：大正期の短編小説の研究

2・授業の目的と概要：この授業では、大正期（1912～1926）を中心として、1910～1920 年代に発表された多様な短篇小説について、文化的・社会的なコンテクストを視野に入れて分析し、その特性や意義を考察する。受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

3. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
(2) 大正期の日本における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ガイダンス 2—大正期文学の諸問題
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

5. 成績評価方法：授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

6. 教科書および参考書：講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：授業で取り上げるテキストを、受講者全員が事前に時間をかけて精読しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本演習は第 6 セメスターも連続して履修すること。

科目名：日本文学演習

曜日・講時：木曜2限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB54205, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：『平家物語』の研究

2・授業の目的と概要：文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということを、『平家物語』についての考察の実践を通して理解して行く。

3. 学習の到達目標：文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 『平家物語』についての解説
- 2 『平家物語』についての解説
- 3 『平家物語』についての解説
- 4 『平家物語』についての解説
- 5 『平家物語』についての解説
- 6 『平家物語』についての解説
- 7 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 15 考察発表とそれにもとづく意見交換

5. 成績評価方法：授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

6. 教科書および参考書：テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

7. 授業時間外学習：各回の授業で考察対象となる記述、表現をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本演習（『平家物語』の研究）は、第6セメスターも連続して履修すること。

科目名：日本文学演習

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：仁平 政人

コード：LB63403, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：

1. 授業題目：大正期の短編小説の研究

2・授業の目的と概要：この授業では、大正期（1912～1926）を中心として、1910～1920 年代に発表された多様な短篇小説について、文化的・社会的なコンテクストを視野に入れて分析し、その特性や意義を考察する。受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

3. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
(2) 大正期の日本における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 担当者による口頭発表と討論
2. 担当者による口頭発表と討論
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

5. 成績評価方法：授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

6. 教科書および参考書：講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：授業で取り上げるテキストを、受講者全員が事前に時間をかけて精読しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本演習は第5セメスターから連続して履修すること。

科目名：日本文学演習

曜日・講時：木曜2限

Semester：6 単位数：2.00 単位

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB64204, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：『平家物語』の研究

2. 授業の目的と概要：文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということを、『平家物語』についての考察の実践を通して理解して行く。

3. 学習の到達目標：文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 2 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 3 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 4 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 5 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 6 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 7 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
- 15 考察発表とそれにもとづく意見交換

5. 成績評価方法：授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

6. 教科書および参考書：テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

7. 授業時間外学習：各回の授業で考察対象となる記述、表現をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本演習（『平家物語』の研究）は、第5 Semesterから連続して履修すること。